

ニュージーランド短期留学

湧別高校2年 齋藤 萌

私たち大人を含めた9人は11月2日から14日までニュージーランドにて短期留学を行ってきました。最初は上手にコミュニケーションを取れるのか、友達が出来るか、ホストファミリーが受け入れてくれるのかなど、正直行く実感が無かったり、楽しみよりも不安や心配などの方が大きかったです。

私のニュージーランドでがんばりたいことは、ニュージーランドの有名な食べ物、スポーツ、観光スポットなどについて深く知りたいということと、住んでいる人の話すスピードに慣れていきたいということを目標にしていました。率直に言うと、2週間だけでは会話の細部まで聞き取れないと、わからない単語や理解が追いつかない時がありました。オークランドのマクドナルドの店員には英語があまり伝わらずばかにした笑いをあびせられた子もいたので世の中は世知辛いなと思いました。

登校初日、E S O Lという英語の授業はとても楽しいのですが受け答えが全て英語の、しかも誰も助けてくれない状況なので初日や二日目などとても苦労しました。伝えたい言葉は頭に思い浮かぶのにいざ口で伝えようとすると単語や文法の使い方が分からなく、もどかしい気持ちを何十回もしました。

私は留学に行く前にいろいろなシチュエーションを想像し、日常会話をたくさん復習しました。よく使う文はミニノートに書くなどして会話をスムーズにしようと心がけました。

日本との違いや驚いたことは、大きい都市以外には信号がないこと、基本電線がなく、ごちゃごちゃしていなかつたこと、道ばたに電動スクーターがいたるところで貸し出しをし、町の人はそれに乗っているということに驚きました。生活面では、ニーフ家では途中までくつで上がったりしていたこと、部屋のドアは基本開けており、入られたくない場合のみ閉めておくというスタイルは日本とすごく違うなと思いました。他には車の後部座席に乗っている人もシートベルトをしなければ罰金ということにも驚きました。

自分の成長や上手くいったことは、少しずつだが、先生や友達とコミュニケーションを取れたり、あいさつが出来たことです。あいさつをすると向こうも笑顔で返してくれるのでとても心が温まり、あいさつ一つでも自分の自信になりました。ですが、もう少し早めの段階でコミュニケーションを取れたら会話の幅やスムーズに行えたのかなと反省しています。他にはお土産配りの際にたくさんの人々に声をかけたこと飲食店やリカトンモール内で自分でお金を払えたことです。最初はあたふたてしまい、デビットカードでの支払いが多かったのですが中間から現金で払えるようになっていきました。

今回、保護者の方々や町の留学に関わった方、ホストファミリーやダーフィールドハイスクールの方々には感謝しかありません。